

D-16 女子学生の基礎体温に関する研究(第4報)

山形大 長岡 佑

1. 前回までは女子学生 100 名の, 松本・大倉両氏による BBT 型分類と, 飯塚・吉田両氏による分類との比較検討・前者による BBT 型別, ABO 式血液型別にそれぞれ, 周期日数, 回数, 持続日数, 随伴症状の特徴を述べたが, 今回はおもに月経周期の変動に関して検討した。

2. 前回と同じ。3. (1). 100 名の総周期 1,149 回を正常 2 相性周期 (A). 黄体機能不全と思われる周期 (B). 無排卵周期 (C) の種類に分けると, (A) は約 78% を占め (B) は約 17%, (C) は約 5% である。(2), 25~38 日の範囲の周期では (A) が約 83% で最も多く, 次が (B) で約 14%, (C) はわずかに約 3% に過ぎない。ことに 19 日以内の周期では (B), (C) の異常周期の出現頻度が著しく高い。(3), 1,149 周期のうち (B) と (C) を除いた 900 周期の平均日数は 32.35 日, 標準偏差は 5.59 日, 低温相平均日数は 19.37 日, 標準偏差は 5.41 日, 高温相平均日数は 12.98 日, 標準偏差は 1.08 日である。月経周期日数と低温相日数との相関係数は 0.97, 月経周期日数と高温相日数との相関係数は 0.32 である。従って周期日数の変動は主として低温相日数の変動によることがわかる。(4), 周期日数の差について 1,149 周期をみると, ± 5 日の範囲内に入るものが 67.39% であるが,

900 周期の正常 2 相性周期については ± 5 日で 69.38 % である。低温相日数についてみると ± 5 日では 70.13 % であるのに、高温相日数の ± 5 日では 94.75 % と著しく多い。これからも低温相日数の変動が高温相日数の変動よりも多いことが明らかである。